

橋本俊詔『格差社会』

第1章 格差の現状を検証する

全体のまとめ

- 1980年代以降、所得分配の不平等化は拡大している
- 深刻さを増す日本の貧困
 - 絶対的貧困：生活保護、貯蓄ゼロ世帯、自己破産、ホームレス
 - 相対的貧困：OECD調査結果

いずれの計測からも日本の貧困者の数が非常に増えてきたと結論づけられる

- 日本は先進国の中では不平等度の高いグループに属するようになった
- 統計に表れない格差の存在
 - 富裕層：実際よりも低い所得が数字として出てくる
 - 貧困層：もっと深刻な状況にある人がいるはずなのに、統計データに表れてこない
- 政府の政策は格差拡大を助長
 - セーフティーネットの規模縮小 → 貧困者の増加
 - 格差拡大を助長